

## 「神のことばとユダヤ人」

(ローマ3:1-8)

## 一、「罪」をめぐって

教会では「罪」ということばを使いませんが、「罪」は、神の前にあるべき姿から外れている状態です。罪を「よこれ」と受け取るなり、ちがうと思います。

イエスの時代に、罪のよこれを一所懸命に無くそうと努力した人たちがいました。パリサイ派と言われるユダヤ人たちがでした。前回もお語りしましたが、ルカ福音書で、主イエスはパリサイ人について、こんな話を語られてました。パリサイ人は神殿に入り、立って、心の中でこんな祈りをしました。「神よ、私がほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦淫する者でないこと、あるいは、この取税人のようでないことを感謝します。私は週に二度断食し、自分が得ているすべてのものから、十分の一を献げております」と(ルカ18:11-12)。「この取税人のようでないことを感謝します」ということばを除けば、「立派な人」に見えます。ですが主イエスは、このパリサイ派のユダヤ人を評価されませんでした。「罪」は、造り主なる神から離れている姿です。ユダヤ人は神のことばを委ねられましたが、罪という、神の御思いから外れてい

る状態から、本来のあるべき姿に回復することはできませんでした。むしろ、律法によって高慢になってしまいました。キリストを信じている者は、「こんな私を救ってください。これは神のあわれみ以外の何ものでもない」と知り、「神様、罪人の私をあわれんでください」と、祈る者です。

## 二、神のことばとユダヤ人

パウロは、ユダヤ人キリスト者を意識しつつ、ユダヤ人がどういう存在であるかを、2章17節より29節まで語りました。それは、自らもユダヤ人であったパウロであったからこそ、できたことです。そのことは、前回お語りしました。3章になりました、やや話題を変えます。1節、2節を見てまいります。ここでは、ユダヤ人のすぐれている点は何ですか。割礼に何の益があるのですか。あらゆる点から見ると、それは大いにあります。第一に、彼らは神のことばを委ねられました。とあります。1節は「ユダヤ人の良い点は何ですか」程度の意味です。また、2節でパウロは「彼らは律法を委ねられました」と語らず、〈彼らは神のことばを委ねられました〉と語ったのは意図的です。律法、すなわち旧約聖書も神のことばですが、律法によっては罪から救われないうのが、パウロの伝えるメッセージだったからです。

主イエス・キリストを信じる者にとって、「神のことば」である旧約聖書は、キリストによる救いを預言する書です。そのように旧約聖書を見るなら、主がモーセに示された幕屋の構造より、神がいかに近寄りたく、聖なる御方であるかを教えられ、同時にその聖なる神に近づくためには、罪が清められなければならぬことを教えられます。あるいは神は、主の教えに従って歩み続けるならイスラエルを祝福し、主の教えに背を向けるなら厳しく罰する御方であることが語られています。しかし主は、たとえイスラエルが罪を犯しても、悔い改めるなり、以前のことは水に流して、祝福される御方であることが語られています。神の賜物と召しは変わりません。したがって、神がイスラエルを見捨てられることはありません。そのような教えは、神のことばである旧約聖書で語られています。聖書を読んだことのある者にとっては、すでに知っている知識ですが、神のことばを知らない異教徒には、まったく分からないことでした。そういう意味で、〈彼らは神のことばを委ねられました〉は、大きな事です。

## 三、神の義の性質

5節をご覧ください。ここでは、もし私たちの不義が神の義を明らかにするのなら、私たちはどのように言うべきで

しょうか。私は人間的な言い方をしますが、御怒りを下す神は不義なのでしようか。とあります。パウロは、自分がこう言ったら、ああ言って来る者がいるだろうと想定して語っています。たしかにイスラエルの不義、すなわちイスラエルの罪によって神の義である慈愛と峻厳が現れたのも事実です。どうやら、「かつてイスラエルが犯して来た罪は『必要悪』であったから、神がイスラエルをさばかれるのは間違いない」と、屁理屈をこねる人たちがいたようです。パウロは、次のように答えています。6節です。〈決してそんなことはありません。もしそうなら、神はどのようにして世界をさばかれるのですか。〉と。神は、悪は悪としてさばかれ、善は善として称賛される御方です。

続いて7節、8節です。〈ローマ3:7-8〉 たとえば変かも知れませんが、人を裏切ったことによって、すべてがうまく行ったとしても、神は、裏切りは裏切りとしてさばかれるという意味です。罪に対しては単純に考え、悪いことは悪いと受け止め、結果は主に委ねて行くことが必要です。主イエス・キリストを信じるとは、そういう生き方です。なぜなら、私たちの内にお住まいになる主イエス・キリストが、すなわち聖霊が、絶えず「主のみこころは何か。私は主にお従いしたい」という願いを起こしてくださっているからです。